

捨てるを変える、未来が変わる

今日から始めるゴミ減量

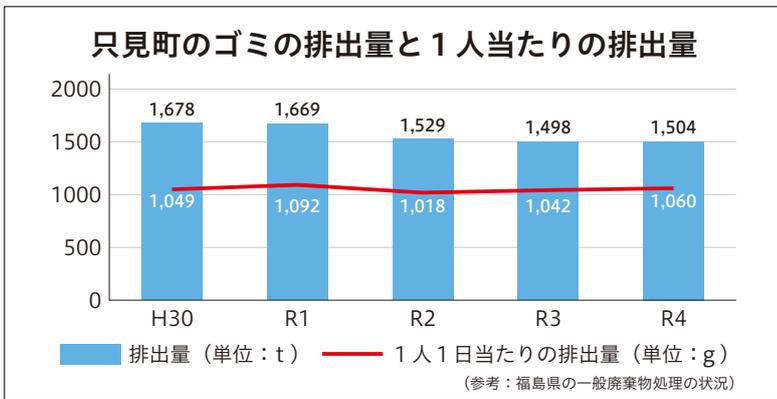
福島県はワースト1位
只見町は県内平均よりも多い結果に

福島県のごみ排出量は、1人1日あたり1,021グラムで、全国ワースト1位となつています。只見町のごみ排出量は、1人1日あたり1,060グラムで、県内平均よりも多く排出しています。

平成30年から令和4年までの只見町のごみの排出量は減少しているものの、人口減少が進み、町民1日1人あたりのごみの排出量はほぼ横ばいとなっています。



▲リサイクルを啓発するポスター



家庭ごみ、事業ごみとも、排出されるごみの割合の多くを可燃ごみ(燃えるごみ)が占めており、ごみ焼却コストの増加や

二酸化炭素排出量の増加の原因となっております。

このことから正しいごみの出し方を守りつつ、ごみの減量化にも取り組まなければなりません。

では、具体的にはどのように取り組めば良いのでしょうか。

○資源ごみへの分別

資源ごみ(プラ容器、紙容器、紙パック、古紙、ビン、ペットボトル、ダンボール)を分別し、可燃ごみの量を減らしましょう。可燃ごみとして出している書類などの紙類も古紙として出すことで、可燃ごみを減らすことができます。

○使い捨てを減らす

お箸やコップなどは使い捨てタイプのをできるだけ避け、再使用可能なものを使いましょう。また、シャンプーや洗剤、調味料などは詰替え可能なものを選ぶこともごみの減量になります。他にもマイボトルを持ち歩くことも有効です。

このような、人や社会、地域、環境に配慮した消費行動をエシカル消費と言います。

○生ごみの水切りや堆肥化

可燃ごみの中でも、生ごみが占める割合は3〜4割と言われており、生ごみのおよそ8割は水分だと言われています。生ごみは捨てる前に水気を切る、または乾燥させることで大きく減量化することが可能です。ヘタなど調理で使わない部分は、洗う前に切り落とすなど、濡らさない工夫も大切です。また、生ごみを肥料化(コンポスト)することも有効です。

○地球環境を守る

ごみの量が少なくなれば、焼却コストや処理施設の維持管理コストなどの削減につながります。また、ごみの分別などで資源を守ることや、可燃ごみの焼却量を減らし二酸化炭素排出量も減らすことは、環境保護に繋がります。

できることから始めましょう。

